

教育課程編成委員会規定

(趣旨)

第1条 この規定は、教育課程編成委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 本学院は、設置する各学科に、専門性に関する動向や実践的な職業教育の質を確保するための教育課程の編成やその実践方法、教員の資質能力の育成など、意見交換を通じて、より実践的な職業教育の質を確保するための委員会を置く。

(委員の委嘱等)

第3条 委員会を構成する委員は、次に掲げる者とし学院長が指名する教職員の他、設置学科に関する企業等の役職員から広く選任するものとし、少なくとも、①または②から1名、③から1名を委員に加えることとする。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体や職能団体、地方公共団体等の役職員

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

3.委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(組織等)

第4条 委員会の委員長は学院長(教務部長、科長)とし、会務を総括する。

2.委員長に事故のあるときは、又は欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(委員会の開催)

第5条 委員会は、年2回開催することを原則とする。

2.委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。ただし、第3条①～③の委員に事故があるときは、代理の者が出席できる。

3.委員会の決議は、出席委員の過半数をもって決する。

4.委員会の結果は、学校ホームページに掲載する。

(守秘義務)

第6条 委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。なお、この義務は、委員の任期終了後も継続するものとする。

(雑則)

第7条 この規定に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員会が別に定める。

附則 この規定は平成28年4月1日より施行する。

この規定は令和6年4月1日より訂正する。

会議名	教育課程編成委員会(1)			
日時・場所	2025年2月27日(木) 16:30～17:32 山口コ・メディカル学院 (対面・オンライン併用)			
出欠席	名	前	所 属 等	種 別
オンライン出席	C	委 員	一般社団法人 山口県言語聴覚士会 会長	①
オンライン出席	D	委 員	医療法人医誠会 都志見病院 訪問リハビリテーション室 室長 理学療法士	②
出席	E	委 員	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会 済生会山口地域ケアセンター リハビリテーション科 科長 理学療法士	③
出席	F	委 員	地方独立行政法人 山口県立病院機構 山口県立総合医療センター 技師長 作業療法士	③
出席	H	委 員	地方独立行政法人 下関市立市民病院 主任 言語聴覚士	③
出席	学	院 長	山口コ・メディカル学院 学院長	「-」
出席	顧	問	山口コ・メディカル学院 顧問	「-」
出席	学	院 P	山口コ・メディカル学院 理学療法学科 学科長 学生部長	「-」
出席	学	院 O	山口コ・メディカル学院 作業療法学科 学科長	「-」
出席	進	行	山口コ・メディカル学院 言語聴覚学科 学科長 教務部長	「-」
欠席	A	委 員	一般社団法人 山口県理学療法士会 会長	①
欠席	B	委 員	一般社団法人 山口県作業療法士会 会長	①
欠席	G	委 員	医療法人まえば小児科クリニック まえば小児科こども支援事業所 管理者 作業療法士	③
事務局		山口コ・メディカル学院 事務長 ・ 事務(議事録)		

(敬称略)

発言者	発言要旨		
進行	出席委員の紹介および会議次第、教育課程編成委員会の目的について		添付資料
1.各学科の3つのポリシーについて			
進行	用語の説明 3つのポリシーの捉え方について		
	AD:アドミッションポリシー	求める学生像や適性(入学時)	
	DP:ディプロマポリシー	教育理念に基づき卒業する学生が習得する能力(卒業時)	
	CP:カリキュラムポリシー	教育課程の編成や授業内容、教育方法、評価方法など教育目標ディプロマポリシーを達成するための基本的な考え	
学院P	理学療法学科の3つのポリシーの説明とCPの特徴について		添付資料
	CP1 臨床でのコミュニケーション能力の向上を図るため、ソーシャルスキル論(新設科目)は、他学科より15時間多い30時間で開講します。 1年次からデイサービス等での実践、縦割りクラス(1年～3年)科目の新設、当該科目には、担任の他、担当教員を配置します。		
	CP2 基礎科目の時間数を減らし、専門科目の時間数を2280時間から2325時間へ増やした。スポーツ障害治療学は、従来より2倍の60時間とした。 最新機器を用いた評価や分析、タブレットの活用、ケーススタディを通して、実践力や思考力を高めたい。		
	CP3 多職種連携概論(新設科目)では、3学科合同症例検討会、模擬症例などを通して、多職種連携における専門性を身につけてもらいたい。		
学院O	作業療法学科の3つのポリシーの説明とCPの特徴について		添付資料
	CP1は1年次、CP2は2年次、CP3は3.4年次に対応させることで、DP1.2.3を達成したい。		
進行	言語聴覚学科3つのポリシーの説明とCPの特徴について		添付資料
	DP1はCP1、DP2はCP2、DP3はCP3へ対応しています。		
2.カリキュラム改訂にあたって			
進行	改訂の背景 2点	現行カリキュラムが改訂時期であること。 言語聴覚士養成の指定規則改訂に基づき、カリキュラム改訂が必要となりました。	添付資料
	改訂の骨子(3学科共通)	従来、授業数過多であった1・2年次の基礎分野を中心に授業科目・時間数を整理しました。 全ての履修科目を3学科とも必修科目としました。 総時間数は減少しましたが、代わりに臨床に必要な基礎知識、特に解剖生理学の授業時間を増やしました。 コミュニケーション能力の授業を充実させるため、ソーシャルスキル論、他職種連携の必要性を学ぶための他職種連携論など 臨床現場のニーズに答えられる医療従事者の育成につながるためのカリキュラムを編成しました。 今年度から先駆けて、多職種連携では3学科合同で、ケーススタディを実施しています。 次年度は、縦割りの講義として、各学年1～3年生を交えた講義を行い、学科内の縦繋がり人間関係の構築に向けて、各学科取り組んでいく方向です。	
3.各学科からの2025年度以降のカリキュラムについて			
	現行→新カリ		

学院P	分野別時間数の変更	基礎分野は、75時間減(345→810/時間) 専門基礎分野は、75時間増(885時間→810/時間) 専門分野は、45時間増(2280→2325/時間) 総時間数は、105時間減(3510→3405/時間)	添付資料
	新設科目/ソーシャルスキル論	他学科は15時間ですが、30時間配置し、加えて日本語力や文章力、要約力の育成にも努めたい。 1年次から、高齢者施設訪問などを採り入れたい。	
	時間変更/理学療法セミナー	縦割り授業開設のため、各セミナーの時間数を増やしました。 担任以外にも、縦割りクラスには、担当教員を配置し、コミュニケーションの活性化を図りたい。	
	科目名・時間数変更	専門科目の専門性を強化、体系化を図った。科目名は、履修内容に即した科目名へ変更した。 スポーツ障害やトレーナー活動に関心のある学生に向けて、スポーツ障害治療学は、時間数を倍増した。	
学院O	分野別時間数の変更	基礎分野は、120時間減(345→225/時間) 専門基礎分野は、75時間増(765→840/時間) 専門分野は、90時間増(2380→2470/時間) 総時間数は、105時間減(3565→3460/時間)	添付資料
	閉講科目/物理学	高校で履修者の少ない物理学(30時間)を閉講し、運動学や運動力学を学ぶ基礎力学(15時間)に変更した。	
	時間変更/作業療法セミナー	縦割り授業(地域セミナー・国家試験対策など)を開設するため、各学年のセミナーの時間数を増加した。 一部は今年度より実施しています。	
	新設科目/臨床実習セミナー	臨床実習後、臨床実習体験をより深く学び、振り返ることを目的とした科目を新設しました。	
進行	指定規則改訂により	選択必修分野の廃止され、当該科目は基礎分野、専門基礎分野へ移動、閉講しました。	添付資料
	分野別時間数の変更	基礎分野は、250時間増(360時間→615/時間) 専門基礎分野は、90時間増(870時間→960/時間) 専門分野は、90時間減(1920→1830/時間) 総時間数は、15時間減(3420時間→3405/時間)	
	新設科目/手話	聴覚障害者への対応、手話検定取得を見据えた科目です。	
	新設科目/ソーシャルスキル論	3学科共通の新設科目です。基礎分野 15時間です。	
	新設科目/多職種連携概論	3学科共通の新設科目です。専門基礎分野 15時間です。	
	新設科目/言語療法管理学	専門分野 30時間です。	
	分野・時間変更/言語療法セミナー	選択必修分野から基礎分野へ移行、時間数を増やし縦割り授業やグループ講義、学力対策に務めたい。	
	分野変更/地域言語療法論	選択必修から専門分野へ移行、必修科目に変更します。	
4.GPAを使用した学習支援について			添付資料
	用語および本学院の評定方法についての説明		
	導入の目的		成績下位層(下位25%)を把握し、日常の学習支援に結び付け、退学者の減少や現在の合格率の維持に努めたい。 学院全体の取組として、夏・春休み期間には、具体的対策やその評価などを行う予定です。
各委員からのご意見			
E 委員	知識・技術も大切と感じていますが、それ以上に臨床現場でのコミュニケーション力が重要と感じています。 新設されるソーシャルスキル論、多職種連携概論、縦割り授業での体験が、学生の個々にあったコミュニケーション能力の向上に繋がっていくことを期待しています。日常では、間接業務も多く、多様なカリキュラムの中で文章力、要約力を身に付けてもらいたいと思います。		
F 委員	座学で学んだ、型にはまったことは上手にできる反面、そこにオプションがつくと上手くできない学生や新人が増えてきている。 縦割り授業などの体験により、他者の考えを知る機会、柔軟に考える体験、相手に自分の考えや疑問を上手く伝えることができるようになってもらいたい。		
H 委員	言語聴覚士として、理学療法学科のカリキュラムの中に、高次脳機能障害学が開講されていることは有意義と感じています。 コミュニケーションの選択手段を増やす意味で、手話が開講されることに期待しています。 職場では入職してから学ぶことも多く、誰かに質問する、伝えるといった能力が、ソーシャルスキル論や縦割り授業などで養われることを期待しています。		
D 委員	ソーシャルスキル論が充実していることに好感を感じます。さらに発展して、人の尊厳や倫理など繋がっていくことを期待しています。 技術面に関しては、答えを求めてくる学生が多いが、答えをどう導き出すのか、その過程の発想の指導が必要と考えます。そのためには、縦割りやチームアプローチなどを活用してもらいたい。高齢者施設での体験や各種ロールプレーなどを通じ、人としてしっかり話せる、自分の考えを伝えることのできるように指導してもらいたい。 下位レベルの学生こそ、本人が納得できる、やる気スイッチを刺激し、継続した学習に結び付けられるような指導を期待します。		
5.次年度の日程について			
	開催時期は、今年度同じ時期で異論はありませんでした。		
学院長	閉会の挨拶 各委員へ、謝辞と次回開催への抱負を述べられました。		

委員の構成	種 別
業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体や職能団体、地方公共団体等の役職員	①
学会や学術機関等の有識者	②
実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	③
企業等委員として参画することはできないが、学校側の委員としての参画	「－」
※ ①または②から1人、③から1人が委員として参画が必要 ※ ③設置学科の数だけ必要	

会議名	教育課程編成委員会(2)		
日時・場所	2025年3月13日(木) 16:30～17:40 山口コ・メディカル学院 (対面・オンライン併用)		
出欠席	名 前	所 属 等	種 別
オンライン出席	A 委 員	一般社団法人 山口県理学療法士会 会長	①
オンライン出席	B 委 員	一般社団法人 山口県作業療法士会 会長	①
オンライン出席	H 委 員	地方独立行政法人 下関市立市民病院 主任 言語聴覚士	③
出席	G 委 員	医療法人まえば小児科クリニック まえば小児科こども支援事業所 管理者 作業療法士	③
出席	学 院 長	山口コ・メディカル学院 学院長	「-」
出席	顧 問	山口コ・メディカル学院 顧問	「-」
出席	学 院 P	山口コ・メディカル学院 理学療法学科 学科長 学生部長	「-」
出席	学 院 O	山口コ・メディカル学院 作業療法学科 学科長	「-」
出席	進 行 / 学 院 S	山口コ・メディカル学院 言語聴覚学科 学科長 教務部長	「-」
欠席	B 委 員	一般社団法人 山口県言語聴覚士会 会長	①
欠席	D 委 員	医療法人医誠会 都志見病院 訪問リハビリテーション室 室長 理学療法士	②
欠席	E 委 員	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会 済生会山口地域ケアセンター リハビリテーション科 科長 理学療法士	③
欠席	F 委 員	地方独立行政法人 山口県立病院機構 山口県立総合医療センター 技師長 作業療法士	③
事務局		山口コ・メディカル学院 事務長 ・ 事務(議事録)	

(敬称略)

発言者		発言要旨		
進行	出席委員の紹介および会議次第、教育課程編成委員会の目的について			添付資料
1.各学科の3つのポリシーについて				
進行	用語の説明	3つのポリシーの学院の捉え方の説明		
	AD:アドミッションポリシー	求める学生像や適性(入学時)	DP:ディプロマポリシー	教育理念に基づき卒業する学生が習得する能力(卒業時)
	CP:カリキュラムポリシー	教育課程の編成や授業内容、教育方法、評価方法など教育目標ディプロマポリシーを達成するための基本的な考え		
学院 P	理学療法学科の3つのポリシーの説明			添付資料
学院 O	作業療法学科の3つのポリシーの説明			添付資料
学院 S	言語聴覚学科の3つのポリシーの説明			添付資料
2.カリキュラム改訂にあたって				
進行	改訂の背景	2点	5年に1度のカリキュラムが改訂時期であること。	
			言語聴覚士養成の指定規則改訂に基づき、カリキュラム改訂が必要となりました。	
	改訂の骨子(3学科共通)		授業数過多であった1・2年次の基礎分野を中心に授業科目・時間数を整理しました。	
			総時間数は減少しましたが、代わりに臨床に必要な基礎知識、特に解剖生理学の授業時間を増やしました。	
			全ての履修科目を3学科とも必修科目としました。	
			コミュニケーション能力の授業を充実させるため、ソーシャルスキル論、他職種連携の必要性を学ぶための他職種連携論など	
			臨床現場のニーズに答えられる医療従事者の育成につながるためのカリキュラムを編成しました。	
			今年度から先駆けて、多職種連携では3学科合同で、ケーススタディを実施しています。	
			次年度は、縦割りの講義として、各学年1～3年生を交えた講義を行い、学科内の縦繋がり的人际关系の構築に向けて、	
			各学科取り組んでいく方向です。	
3.各学科からの2025年度以降のカリキュラムについて				
		現行→新カリ		
学院 P	分野別時間数の変更	基礎分野は、75時間減(345→810/時間)	専門基礎分野は、75時間増(885時間→810/時間)	添付資料
		専門分野は、45時間増(2280→2325/時間)	総時間数は、105時間減(3510→3405/時間)	
	新設科目/ソーシャルスキル論	他学科は15時間ですが、30時間配置し、加えて日本語力や文章力、要約力の育成にも努めたい。		
		1年次から、高齢者施設訪問などを採り入れたい。		
	時間変更/理学療法セミナー	縦割り授業開設のため、各セミナーの時間数を増やしました。		
		担任以外にも、縦割りクラスには、担当教員を配置し、コミュニケーションの活性化を図りたい。		
	科目名・時間数変更	専門科目の専門性を強化、体系化を図った。科目名は、履修内容に即した科目名へ変更した。		

		スポーツ障害やトレーナー活動に関心のある学生に向けて、スポーツ障害治療学は、時間数を倍増した。	
		評価学や治療学系の科目では、新規購入機器を活用したい。	
学院 O	分野別時間数の変更	基礎分野は、120時間減(345→225/時間) 専門基礎分野は、75時間増(765→840/時間) 専門分野は、90時間増(2380→2470/時間) 総時間数は、105時間減(3565→3460/時間)	添付資料
	閉講科目/物理学	高校で履修者の少ない物理学(30時間)を閉講し、運動学や運動力学を学ぶ基礎力学(15時間)に変更した。	
	時間変更/作業療法セミナー	縦割り授業(地域セミナー・国家試験対策など)を開設するため、各学年のセミナーの時間数を増加した。 一部は今年度より実施しています。	
	新設科目/臨床実習セミナー	臨床実習後、臨床実習体験をより深く学び、振り返ることを目的とした科目を新設しました。	
学院 S	指定規則改訂により	選択必修分野の廃止され、当該科目は基礎分野、専門基礎分野へ移動、閉講しました。	添付資料
	分野別時間数の変更	基礎分野は、250時間増(360時間→615/時間) 専門基礎分野は、90時間増(870時間→960/時間) 専門分野は、90時間減(1920→1830/時間) 総時間数は、15時間減(3420時間→3405/時間)	
	新設科目/手話	聴覚障害者への対応、手話検定取得を見据えた科目です。	
	新設科目/ソーシャルスキル論	3学科共通の新設科目です。基礎分野 15時間です。	
	新設科目/多職種連携概論	3学科共通の新設科目です。専門基礎分野 15時間です。	
	新設科目/言語療法管理学	専門分野 30時間です。	
	分野・時間変更/言語療法セミナー	選択必修分野から基礎分野へ移行、時間数を増やし縦割り授業やグループ講義、学力対策に努めたい。	
	分野変更/地域言語療法論	選択必修から専門分野へ移行、必修科目に変更します。	
4.GPAを使用した学習支援について			添付資料
	進行	用語および本学院の評定方法についての説明	
	導入の目的	成績下位層(下位25%)を把握し、日常の学習支援に結び付け、退学者の減少や現在の合格率の維持に努めたい。 学院全体の取組として、夏・春休み期間には、具体的対策やその評価などを行う予定です。	
各委員からのご意見			
G 委員	可能なら、臨床実習セミナーの臨床実習経験報告会に参加して、今後の臨床実習指導に役立てたい。		
A 委員	3つのポリシーの所感として、学校の教育理念や目標と相まって、主語がはっきりしており、新人教育との共感を感じています。 ソーシャルスキル論では、接遇を内容に含んでいる様ですが、臨床現場の方をお呼びしてリアルな話をしていただきたい。 新人教育においても、日本語力、文章力、言語化するスキルの必要性を感じており、学生のうちから、コツコツと身に付けてもらいたい。		
A 委員	アセスメントポリシーの設定について(質問)		
進行	現在、3学科長を中心に策定の段階です。次年度の会議で、報告したいと考えています。		
A 委員	専門授業における実技時間数の変化について(質問)		
学院 P	実技時間数は増やしています。理由として、臨床実習指導が診療参加型実習(C C S)移行によって、3年次臨床実習でも 治療の見学・模倣が増えており、それに対応すべく、新カリキュラムでは実技練習に取り組む時間を増やしています。		
A 委員	学力の評価点を指標化するGPAの意味を問われ、3つのポリシーに沿う医療人としての資質など、GPAで指標化されにくい側面に関して問われました。(質問)		
進行	学期末にGPAを測定し、学力下位層には長期休暇中の基礎学力の向上に努めたいと考えています。学力上位、中間層については、日々の学習場面で 支援いたします。医療人としての資質や人間性などは、セミナーを通じて継続的に育成していく方向です。		
B 委員	3つのポリシーの所感と学生周知の仕方について(質問)		
進行	学校案内、授業概要など明文化し、学生に周知します。志願者には、オープンキャンパスなどで伝え、学院の教育理念を理解した上で受験していただきたい。		
B 委員	各セミナーでの縦割り授業の意図は、実社会での役割分担などを意図したのですか。(質問)		
進行	これまでの経緯を踏まえ、まずは横のつながりとして、今年度から多職種連携を目的に3学科合同のケーススタディを導入しています。 次年度から、実社会を見据えた、縦のつながりを意識したセミナー授業を展開していきたい。		
B 委員	医療職として、身だしなみとおしゃれを履き違えている人もみられるので、ソーシャルスキル論ではその辺りも取り扱ってもらいたい。		
H 委員	新カリキュラムについての感想として、縦割り授業の中で、下位学年に対する臨床実習に関する助言について(質問)		
学院 S	言語聴覚学科では、3年生からSOPEの書き方を1.2年生に伝えています。また実習経験報告会は、全学年が参加しています。		
学院 O	作業療法学科では、今年度から1年から4年の実習経験報告会に全学年が参加し、各学年に応じた質疑応答を通じて、情報を共有しています。		
学院 P	理学療法学科では、一昨年から実習経験報告会に下位学年が参加することで、実習が身近な課題として捉えられ、その準備性に変化が生じるなど 良い影響を与えています。		
5.次年度の日程について			

A 委員

開催時期は、今年度同じ時期で異論はありませんでした。

学院長

次年度、委員交代のご意向を示されました。

閉会の挨拶 各委員へ、謝辞と新カリキュラムへの期待と課題を述べられました。

委員の構成	種 別
業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体や職能団体、地方公共団体等の役職員	①
学会や学術機関等の有識者	②
実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	③
企業等委員として参画することはできないが、学校側の委員としての参画	「－」
※ ①または②から1人、③から1人が委員として参画が必要 ※ ③設置学科の数だけ必要	